

ヘンリー・キッシンジャー著「外交(上)」日本経済新聞社 1996年6月17日刊を読む

アメリカは東西交渉における西側の結束を選んだ。事実、他の選択はなかった。というのは、スターリンにのせられて交渉を続けた結果、アメリカが樹立を目指している新国際秩序をくつがえすためにのみスターリンが交渉を利用していたと気づくはめになるという危険を冒したくなかったからだ。封じ込めは西側の政策の指導原理となり、その後40年間、指導原理であり続けた。

P603

[コメント]

日米同盟が日本の政権政党の国際的状況認識、把握の稚拙さのために危機的な状況に陥っている現在、アメリカの外交政策の基本的スタンスを再認識する必要がある。そのためには、キッシンジャー博士の「外交(上・下)」は必読の文献。上巻最後の文章がアメリカの外交スタンスをよく示している。

- 2010年4月25日 林明夫記 -